



Title	Lymphangiogenesis and Angiogenesis in Conventional Renal Cell Carcinoma: Association with Vascular Endothelial Growth Factors A to D Immunohistochemistry
Author(s)	岩田, 隆寿
Citation	(2010-03-19)
Issue Date	2010-03-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/25035">http://hdl.handle.net/10069/25035</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:46:34Z

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 329 号	氏名	岩田隆寿
学位審査委員	主査 田口 尚 副査 北岡 隆 副査 増崎英明		
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 腎細胞癌の進展におけるリンパ管新生と血管新生の意義をvascular endothelial growth factor (VEGF)の発現との関連において検討したものであり、研究の目的は妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 ヒト腎細胞癌107症例の組織標本におけるリンパ管密度、血管密度、及びVEGF family (A-D)の発現を免疫組織化学的に検討し、臨床病理学的指標や予後との関連について解析したものであり、その研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析考察の評価 上記手法で解析した結果、腎細胞癌においてリンパ管新生はほとんど認めず、腎細胞癌では腫瘍の進展や転移にはリンパ管新生の関与は少ないと考えられた。また、VEGF-Aは血管新生と腫瘍進展との関連がみられたが、VEGF-B, C, Dにはリンパ管新生や腫瘍進展との相関は認めなかった。以上から、腎細胞癌においてリンパ管新生やVEGF-B, C, Dを標的とした治療は有益性が低いことを示唆する成績であり、腎細胞癌の治療の領域に新知見を示したものとして評価される。</p>			
<p>以上のように本論文は腎細胞癌の研究に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			